

NEW CROWN 授業実践事例

BOOK 1 LESSON 4 授業例②

T.J. 先生

指導計画表

(全5時間)

時間	学習内容・主な活動
1	■GET 1 ・文法の導入 ・本文の導入・理解
2	■GET 1 ・本文の音読練習 ・Drill ・Practice
3	■GET 2 ・本文の導入・理解 ・音読練習 ・Drill ・Practice
4	■GET 3 ・文法の導入 ・本文の導入・理解 ・音読練習と発表準備
5	■GET 3 ・発表

実践例

1. この LESSON でねらったこと

この LESSON では、複数形や数のたずね方、命令文が扱われています。生徒にとって単数と複数では名詞の形が変わることや、複数形の変化と発音等を理解し使えるようになるまでには時間がかかります。How many+複数形～? の形も、いざ英文を書かせてみると単数形になってしまうことは、1年生のみならず、2・3年生においても見られることです。そこで、数をたずねて答えるというやりとりを生徒になるべく多く聞かせ、使わせてみるということを大事に考えました。

また、命令文については、小学校で Simon says game 等を通して、音声面（特に、聞いて理解すること）についてはある程度身につけてきているので、これまでの「主語・動詞」を含んだ英文とは異なる文の形に着目できるよう「書くこと」についても大事に扱うことを意識しました。

2. 指導の具体例

第1時

Word Corner のピクチャーカードを使って、生徒と次のようなやりとりを行っていきました。

T : How many pencils do you see?

One? Two? Three...?

S : Five.

T : That's right. Five pencils. Everyone.

S : Five pencils.

(その後、5名程の生徒に一人ずつ言わせる)

T : You see five pencils. "see" is 「見える」 in Japanese. I see five pencils. Everyone.

S : I see five pencils.

(その後、5名程の生徒に一人ずつ言わせる)

以下、cats まで同じように行った後、"a pen" "five pens" というように単数形と複数形を並べて聞かせたり言ったりさせて、違いに気がつくことができるようにしました。そして、教科書 p.50 の「文法の要点」に沿って複数形の形と発音について一通り説明しました。しかし、生徒にとっては、名詞によつ

て複数形のつくり方と発音が異なるところが難しいところです。ここで全て教え込もうとはせずに、これから使っていく中で少しずつ慣らしていくことを考えました。授業の中では、辞書を使っても複数形と発音を調べることができることをいくつかの単語を使って確認し、生徒が自分で学習することも考えました。最後に Part 1 の本文を扱ったのですが、校外学習の準備のために健とエマがスーパーに食材の買い物に来ているという場면을説明した後、ピクチャーカードを見せました。その時ピクチャーカードのかごの中身の部分には画用紙を貼って見えないようにしました。そして、買物かごの中身はどうなっているかを聞き取らせるようにしました。onions も carrots も Get Ready で音として扱っているので、聞き取りにはさほど抵抗はなかったように思います。

聞き取りができたところで some の使い方にも触れながら内容を確認し、単語の練習を行って第1時を終えました。

第2時

多くの複数形に触れさせるねらいで、Get Ready 2 の果物・野菜と動物のページを使って、生徒と次のようなやりとりを行っていきました。

T : How many bananas do you see?

S : Four.

T : OK. I see four bananas.

S : I see four bananas.

T : Good.

T : How many tomatoes do you see?

S : I see three トマ...

T : 前回やった「ポテト」と似てない?
"potato" "potatoes"

S : Tomatoes? I see three tomatoes.

T : Good.

この練習は、warm-up として、その後もしばらく継続して扱いました。How many+複数形～? の扱いは Part 2 なのですが、このように第1時から意図的に聞かせていくことで、生徒にとってはリズムと

して頭に残りやすかったようで、よく反応していました。

その後、本文の音読練習を行ったのですが、全体でも、個々に読ませても必ず I have a four onions ~. と言ってしまふ生徒が何人かいます。LESSON 3 での I have a toy in my bag. や I have a shamisen pick. の英文音読時のリズムが染み付いているのだと思います。そういった生徒には、一度 I have でポーズを置かせて練習させるようにしました。

本文の音読後は、教科書に沿って活動を進めました。LESSON 4 から始まる Drill についても、CD を用いて進めながら、Repeat のところでは、全体で練習した後、必ず個々の生徒に言わせてみるようにしています。最後は、ノートに書かせるところまで行い、生徒の書いたものを見て回り、可能な限りマルつけまでできるよう心がけています。

第3時

How many+複数形~? の表現の導入はすでに終わっていたので、Part 2 の本文の導入から入りました。ここでも、ピクチャーカードの健が双眼鏡で見ている部分の切り出し箇所に画用紙を貼り、「実際に健が双眼鏡を通して見ているものをノートに描いてみよう」と投げかけ、CD を聞かせました。その後、内容を確認し単語練習と本文の音読練習を行いました。本文の音読後は、Drill, Practice と教科書に沿って活動を進めました。

第4時

warm-up として、教科書 pp.10~11 を使って、生徒にペアで3つずつ数を聞きあう活動を行わせました。

A : How many bears do you see?

B : I see two bears. How many apples do you see?

A : I see three apples. (同様に続ける)

その後、教師から How many CDs do you have? や How many sisters do you have? など生徒の実際の身の回りのことについてたずねる質問につなげていきました。そして、GET 3 の命令文を扱いました。この時間は ALT との授業であったので、ALT の先生から“Touch your head.”, “Don’t touch your neck.”などの指示を出してもらい、生徒はそれに従う活動を行い、慣れてきたところで、今度は生

徒が順番に ALT に指示を出して動いてもらうという活動を行いました。ALT が“Touch your head.”と言いながら鼻を触ったりするので、動きに惑わされずに、英語を集中して聞いて反応する生徒の姿が多く見られました。

その後、Part③の本文を JTE と ALT の寸劇により導入しました。動きを見せながら行ったことにより、“Let’s clean up.”や“Please use this paper.”, “And we take it home.”といった表現が実際にどうすることなのか理解しやすかったようでした。その後、音読練習に入るのですが、最終的には、生徒達に、JTE と ALT でやって見せたように、前に出てきて動きを入れて表現することを目標にしていたので、発表を次時につなげ第4時を終えました。

第5時

warm-up として、教師から“Touch your head and foot.” “Don’t touch your neck.”などの指示を出し生徒を動かした後、生徒に「~しなさい」と「~してはいけません」を合わせた指示を5つ紙に書かせました。それをペアで交換して見せ合い、指示された通りの動きをするという文字を介しての活動を取り入れました。これは、これまでの定期テスト等から、命令文を聞いて理解することはできていても、命令文という動詞で始まる英文を書くことについては苦手としている生徒が多いことから取り入れた活動です。

この warm-up の活動に続いて、第4時で行った Part 3 の本文についてペアで動きをつけて発表することを行いました。こちらでは、数枚のお皿とキッチンペーパー、ゴミ袋を用意し自由に使ってよいこととしました。生徒の中には、台詞を言うのが精一杯で、“Please use this paper.”とは言っているものの動きが伴っておらず、私に「どの紙？」と指摘されてあわててキッチンペーパーつかんで渡す姿もありましたが、以下のような生徒の姿も見られました。

- ・腕時計を見ながら“It’s three o’clock.”と言う
- ・“Let’s clean up.”と言ってお皿を重ねて集め、洗い場に運ぶ動きをつける。
- ・慌てた様子で“Wait.”と言う。

- ・“Wait.”という言葉に立ち止まって動きを止めて相手の方をふり返る。
- ・“And we take it home.”と言いながら、ゴミ袋を持ち上げる。
- ・“Good.”と言って頷く。
- ・親指を立てて見せて“Good.”と言う。

これらは、一つ一つの言葉の理解を伴った姿であると考えています。実際、授業の最後の振り返りにおいて、「ペアでここはこういう動きをつけた方が自然だとか考えを出し合い発表できた」や「他の発表を見て、そういう動きもできたなあとか、台詞と動きがぴったりと合っていて場面がわかりやすかった」という感想が見られました。

3. 授業と家庭学習とのつながり

本校では、英語・国語・数学において生徒に毎日の家庭学習を課しています。生徒の自律的な学習態度の育成と力の定着をねらっており、学習する内容については生徒が自分で考え、やったノートを教師に提出することになっています。基本的な家庭学習の進め方については、年度当初のオリエンテーションで手引きを配布し説明するのですが、授業を進めていく中でも、こういった学習ができるということを示したり、過去の生徒の学習例から「先輩の中にはこんな学習で力をつけた人もいます」と紹介したりします。特に1年生においては、ややもすると単語練習や本文を写して終わりといった目標も成果もない作業的な内容になりがちです。そこで、授業でやっていることと家庭学習をリンクさせて、生徒が少しでも「力になっている」「続ければ力になりそうだ」と感じられるものになるよう、本 LESSON では次のようなやり方を紹介し取り組ませてみました。

第1時の中での指導

教科書 p.45 の Word Corner を使って、“five pencils.”や“I see five pencils.”を練習した場面で、Word Corner を使って8つのものについて数を言う練習ができることと、さらに、pp.10-11 を使えばたくさんものや動物を使って同じ練習ができることを紹介しました。教科書には複数形が表記されており数さえ数えて組み合わせれば取り組めるよう

になっているのですが、生徒の中には、授業でも扱った辞書を活用して、“three peaches [iz]”と複数形の発音も一緒に確認しながら練習してくる生徒もいました。

第2時の中での指導

第2時では、単語、文レベルから数のたずね方を加えた対話形式での練習を紹介しました。

A : How many rabbits do you see?

B : I see two rabbits.

これらの練習を家庭学習で行うことで、第3時に扱った Part 2 の本文にある“How many birds do you see?”, “I see four.”の理解もしやすかったのではないかと考えています。

第3時の中での指導

Part 2 の本文の導入と音読練習が一通り終わったところで、「もし健たちが山で遭遇した動物が鳥以外のものだったら編」というオリジナルバージョンを考え先輩がいたことを紹介したり、「メイリンが最初に見つけた鳥が1羽だったらどんな会話になっていただろう」と投げかけたりして家庭学習につながる材料を与えました。

このようにして、授業でやったことや教科書の本文をアレンジして様々な練習ができることを知った生徒たちは、興味をもって家庭での学習に取り組んでいるようです。また、他の LESSON でも工夫した取り組みが見られるようになり、その都度授業で紹介したり、次年度への後輩用の資料となったりしています。

4. 実践を振り返って

複数形の指導一つをとっても、文字指導から発音指導まで教えるべき事柄がたくさんある中で、一度に全てを教え込むことを考えずに、小分けにしながら繰り返し触れさせていくことが大事であることを感じています。GET 2 では、How many+複数形～?を使った数のたずね方が言語材料の中心となっていますが、実際の授業では、それよりも、these や those の使い方の方が生徒にとっては難しかったようで理解に時間がかかりました。このことから、How many を使った問答に早いうちから慣れさせておいたことはよかったですと感じました。また、第5

時に行った本文をペアで動きをつけて発表するという活動は、学習指導要領の「読むこと」に示されている「書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読すること」とかかわっており、1年生の早い段階から指導を積み重ねていくことで成果が得られるのではないかと考えます。授業と家庭学習とのリンクについては、生徒の力を定着させ、活用する力を育てていくうえで必要不可欠だと考えるので、今後も研究を深めていきたいです。